# 中芸高だより

平成29年度
第5号

## 平成二十九年度中芸高校卒業式

前夜の激しい嵐も通り過ぎ、徐々に春の暖かさが感じられる三月一日、本校では平成二十九年度卒業式が挙行されました。昼間部十四名、夜間部五名、計十九名の生徒が将来への希望を胸に、中芸高校を巣立っていきました。

式典前に行われた同窓会入会式では、同窓会長の村田様より激励の言葉が送られました。

式では、三年次生にとっては最後の校歌を歌った後、担任から一人ずつ名前が呼ばれ、学校長から生徒へと卒業証書が授与されました。ゆっくりと階段を上り、卒業証書を受け取る堂々とした姿は、三年間の成長が感じられる場面となりました。

生徒会長の山中さんは送辞の中で、三年次生に支えてもらったこと、部活動でお世話になったことなど、たくさんの感謝の気持ちを伝えました。そして、「学校生活や部活動で培った経験を活かしてこれからも頑張ってください」とエールを送りました。これに答える形で卒業生を代表して近藤くんが、三年間を共に過ごし、支えてもらったクラスメイトや家族、先生、そして在校生それぞれに向けて感謝の気持ちを伝えました。答辞の中で、「入学当時は不安と緊張の連続でしたが、学校行事をきっかけに友達が増えていきました。そして、進路決定という高校生活最大の試練を乗り越えられたのは、先生方と同級生のおかげだと思います。夢に向かってこれから頑張っていきます。」と感謝と決意を述べました。退場の際にくす玉から現れた言葉は「百花繚乱」。色とりどりの花が咲き乱れるように、一人一人が個性を出して、それぞれの場所で活躍してほしいという思いが込められました。

式典終了後は、三年教室に移動して、卒業生と三年団の先生方が一人ずつ思いを語りました。前に出る前は笑っていましたが、話し始めると言葉に詰まり涙があふれる場面もありました。その後、皆それぞれが感謝の気持ちを伝え、最後のホームを行いました。そして、卒業生は思い出の校舎に別れを告げ、新たな舞台へと歩んでいくように学び舎を後にしました。最後まで賑やかで温かい、三年次生らしい卒業式になったように思います。

最後になりましたが、ご列席いただきました来賓の方々に、この場を借りて厚く御礼申し上げます。また、この日を待ち望まれていた保護者の皆様、本当におめでとうございました。

卒業生たちの新天地での活躍を願い、これからも心から応援をし続けたいと思います。

## 進路講話

講師　北村　和代　氏

二月八日（木）、三年次生への進級を控えた二年次生に、受験に向けての意識づけを促す、進路講話が行われました。楽な姿勢に慣れた生徒たちは、正しい姿勢を保つにも一苦労。時には厳しい声掛けもいただきながら、これまでに頑張ってきたことを、一人ひとりが前に出て発表しました。より良い自己アピールのための改善点をそれぞれが教えていただき、緊張した面持ちで指導を受けていました。

## 田野町とコラボ！　お弁当の開発

中芸高校昼間部二年次生十一名（家庭科のフードデザイン選択生）が田野町と協力して田野町ならではのお弁当の開発をすることとなりました。

ユージさんを中心としたボランティアメンバーが、岡御殿の隣の「西の岡邸」の庭を一年かけて修復し、二月二十五日にその御披露目がありました。中芸高校フードデザイン選択生のメンバー五人は、ユージさんに試作中のお弁当を食べてもらおうと、田野役場を訪問し、試食をしていただきました。

ユージさん(下列中央)と記念撮影をしました。

## ネット問題防止教室

講師　重光　孝彦　氏

今や日常の一部になり、多くの生徒たちが動画やゲーム、通信手段として毎日のように利用しているインターネットは、使い方を誤ると大きな危険にさらされたり、トラブルのもとになったりします。様々な事例やネットの抱える問題、そして適切な対処の仕方を学ぶ教室が、二月一五日（木）、一・二年次生を対象に開かれました。「ＢＫＩ」（便利なものほど危険がいっぱい）や「よいこ」（世の中にうまい話はない、いらないものはいらない、困った時にはあわてず相談）などの覚えやすいネーミングに、ネットの危険性を再確認し、便利なものを賢く使うことを改めて学んだようです。

## 表彰式の様子

二月二十八日の卒業式予行練習の後、様々な活躍をした本校三年次生が表彰されました。

※詳細は学校通信をご覧ください。